新板
繪入

小野篁歌舟

四之巻

特別
ヘ13
3517
4

河孫
河孫

小野篁歌集

四之巻

目録

第一 遣唐使の帰朝をとゝ業の環境

猫猫の童あけくれるめるいやゐ

せ音びつくりとゝどもなき室子れ怒

とゝ失てもとまゝぬ門前はさゝだ

昭和二十九年七月九日 購求

明 ヘ 13
3517
巻 4

第二　清神樂の掛子ちぐさ写

八十塚左京が場立すぐさにそなる
門浄かざんぶりてあるとりんで乃
めいろく卜沼と長清沼

第三　遊冥妙繁情を高丸烟流

松園しの永乃字若由来
きんてあとたちぶ眞金乃
みやり　乃若ふる者

一　遣唐使の始初ゆるされたる縄

詩小関雅とうして男女別ありぐ日本乃
風俗小野堂の小れ方絵の方法なるもの
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

えらい〜〜
こゆるぎもせず
あつさよ
あけめぐるぞ
有去ども
ろくのき〜
ふつてつぐと
おとかさ
すつくとも
きをたぐるのう
あるごとつてのう
ちりさり
えんちろ
ろんと〜
えこうごさ
ろろろ
えんちろ
ろんと〜
あそばさんすを

なのりの音うつくしかりしふるさとのものどもさそひのごとくつの音のへ
堀細の方も解くれば九ごとの堀つくりなくも空を拾ふこゑひひ
きぬへうやまふ酒のみもたれるるす。ひやにれらて山手をうて羅の雅
先出候様申あのひ作者ゑよ一ゑうくきこゑけうしべしとひざうて邑
商ふうれさてもいんし第和日年ゆうの己れ者遣者大役の者ゑれ
事ぞく。ふしる役の小能の管と動ようもくゑ弱は浮橋のゑうちざいでん。
一二の紅れ山ゑうそひうり管ゑうる机の三字こ者ゑ者ゑうり羅とうけずふ
ゑを流ふれうれ。流役の絵べとみりふうそれの友人みんひ作者ゑをきうく。
管和居の三奴の右居事つぐゑ大ゑの方人ゑ者ゑれ山ひ日のちをと
くうぐさんと。紅様いうぐ谷のうもづるうくとうんぬ管ゑの山角ゑうて
が安庭の兄士せの廣山うぐさゆきうつぐゆきこ者ゑ者の三字とうんてよ様
さきすう遅居たうむひそふ作人切て寸じ。まうたの友引みの者ゑ者ゑよこ

たのひ本のとふあうたうこのゆるとんてこのすぞとんふひとあ拾
たづみのさぐ居うゑてあるとぐゑ。横の学へはくうふ遅居うてと
あるい事嗣あうんと。出ゆく紅を小ひ拾ゑ。いいゆるとうひてたうひい
流遅とうて動命にも作出されうう。ろうゑと管ゑの作い遅居その遅居い
その方あうあと。事嗣の紅みどうひうう。ちゑしもうてぞてうう。
のうさうびにて胴いうう。居はのちうと首い居遅居ゑうひ出のひ
ちうされううとうゑゆの事居ぐゆうゑうゑうひまうりしと事ゆうげみ
でのぐ居る。管ゑ今へうくうゑ拾ゆいゑをみてとれと矣ふとゑ拝
居居ゑうゑものれ居べうへ月人ぐうゑふ次のるうあれみのまうる遣居
役の遅居ゑれうりとゆうひあのこい奇字五事。まうたの友引つゆひて紅
白下ひうり布衣のものゑうゑゆうぐくゆうゑうて友ゆうゑうり作とうひ
てううひ事うう。中西うて事ゑの友人門もかうあも神祭て

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ざせーて男と金とをとりてたるようり。長松そざとゆるこせ
てのえんがくぷんてろくせんざりまくふ宮みの軍略そとうやあんだ
たろんまんきとゆあくとそあざりろぷ宮みこぞーをかあ ぶあども
ふいすきみーめ縄大猫もるるでかりにそくれーがかあーやると武
ちとあろひいりやひみーあうぶちざたくいるいろるるとも。
なりのんでまておとをなそでかくぐとうみをうらかとろ
ろーとやくー男とのぶぐーけと書てりーをかとともむりに
ろーとこ猫まんもぴんとろろさんち猫のつるまにまるせ門屋より
紙をう用て部くとびそぐろいやみるれ梓ろ見をくにるるる。
男のきんとのをとぐにつと。えるまふにいまーめーとたりまふぐに
のり物の内あてろろく縄をとり。かぐくとぐそろつのあくぐとまあ

とびこそくあいとぐと。日本そのひと祇武の宮本稲荷の合海り
ぐせるようり水まんの術得ろりきて。呪文をとる人れをとでまてでるろ
ぐ。芳法の術とそ光明もるれ。空人いろと見とれあくをエ、光をふ
仕ろよてまろくも功もむ
あもつとそそーとぐるめどくとぐを拾もみー。さても大内西宮子
ゆとぐとちんざとも。大蓮の方人ろろびさんぐい音信紀まを左みろ
ふて。西る神社伝あさーうんと。三云九で八宿のつろうくれ級見をたぐし。
右記云をつぐを云。唯大信長神仏方るい中伝云長庵ををちろりに大納云
に猪狩しに。仏宮のいくふまるをぐ。ぐを陸門代のかぐ。弟。関白西隆時乃
内祢宗かろぐーくも猪狩なり。紙武あをれば長神仏樂人をもむろひ
めひのとて今日の神祢宗少大長張の赤の物をとのこーまるとぐ。絵

みんないつまもく　ひとをとそろへ人ぴと帝の御なりてへ文武帝れ紙ゆ玉ゆ
てぴとれを取ーまりぴうこの外ゆ　古人ゆうせぴこの後る仲ゆの歌ゆ。
ゆのぞをやうんと行でーぴ行とそたのまさぬ上最ゆ科下さうく　古ゆの名
ゆもつりへ　ねゆ　形ひとまるとゆ　ふ有ても文神ゆム、その者ゆやてねゆん
親養ゆさんゆ　ゆとれとの行ゆも　ゆ多ゆ　ゆとるあてれぴとゆなりく
行ゆさるぴそろと猶くゆーこ多り遠ゆーゆるその行ゆ。ねゆんゆやまぴられん。
接雨遠仮雨養ゆ書ゆの文つぴ字ゆれをさ行ふて形伝者ゆ名ゆ八十後
ゆ帝ゆそんゆゆまにつを髪も四後ゆのゆそれゆりぴゆびゆろうくゆり
いゆとーゆ多ゆ行とゆぴゆぴーにゆりゆまゆゆのゆぴ一養ゆ宮ゆ紙
ゆ影ゆりぴ雨ゆとりそれ後ゆーさーゆぴれ行ゆひとゆふゆ宮ゆれゆゆ。ゆ雨ゆ
ゆれゆゆ月ゆんゆたゆんゆぴーゆぴゆーゆりゆぴゆーゆぴゆゆ
ゆゆみゆとゆりゆとれゆそんゆゆりゆびゆぴゆりゆそゆ者ゆりゆり様ゆをんゆゆゆ

ゆゆ者ゆの後ぴ人ゆゆゆゆと見ゆぴゆれゆ武ゆもゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
配ゆるゆゆゆ者ゆの後ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆを出ゆくゆとゆゆゆゆ　ゆ現ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆ後神ゆれゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆれゆゆ今一ゆ安ゆゆ　ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆ人ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆ海ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆのゆゆゆゆゆゆゆ大ゆ人ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆれゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆ一ゆ一ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
くゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

高野山の四天王寺のまへ、さしづかに海の四うしをみどうさきにかけわたしく
いろふしもくけうへ、光の毛むくじゃらにて、ほうこ、ぬ花つけどの四位ゆさんかとぞ
ひけ侍りしとかたりつたへ、高野山の四格にはんべし
とのはなしありがたくとりぴかんとまろうかぶ花にてつくべきものと
思ひ、さいさいこれをとりて、ぬかんれもうぴかんと思ひ、ぬ子ばかりの
よしやうかぶれ、龍へ金剛のこゝろふかくかくしてのこれ紙なりこの嵐れる
ほうかのくるふあしびや、茅竜の世界国家の四てあなんべそれにつあての
毛あるものとうそうぎ、ぬ人ぬ行ものあるさものみたそのみたがと格う。
こうろ、ぬ人のかれうこ、ぬ子のまへ人へ、ぬ子ばかりのこれ
ぬ子などつんとのうるのぬそのこまへ引もとくこうぬ子ばかりこれ
ぬいろにとそうのひしといたこ、ぬ人がたとそうくとうく筆動のこれ
て四天王寺くこ、候紙の異表堂へゆこのうこの四ふはうちんもとつ。

ぬこう、候紙へでいそだ、ぬ、ぬれ猪熊のみひと、冥去堂とりたかはる人一
て紙猪の異地うぬ小邦の筆ひ、ぬ、ぬれきてなりとく物欲の体を考へ
おそ、一ぬ、ぬ人のこうひ、ぬ、ぬしてこの牙をたべこふかくりうるなぬ筆二云
もうく若天のトいづく王地よあるぎるやぬに神猪の紙猪屋をとくのこ
ちませぬふ書猪のおと紙猪ふぬ、ぬ、ぬ、ぬとうこの寒こばば
病にうるうとてもかしぬうーこ、又病よなりうるとて天のれうこのかくうら
ぬいそだこ、ぬ牙がかくうる格ふ一色のみとこ色
とぬ、ぬ、ぬ、ぬこうてこ、ぬ、ぬ、ぬ人の格びこんとうるとぬ、ぬ、ぬ
まてとうがれくぬの方すいこの紀三位の刺ぬふあのてい別人なれ若すり
うぬぬのぬとこ大臣がうぬ、ぬてあこ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬこれ孫のこれ
いこれどぬ、ぬあてもひとうの切をとうまでぬ、ぬ、ぬはよ、ぬ、ぬりぬけとうまび
こ人ぬ、ぬ、ぬ、

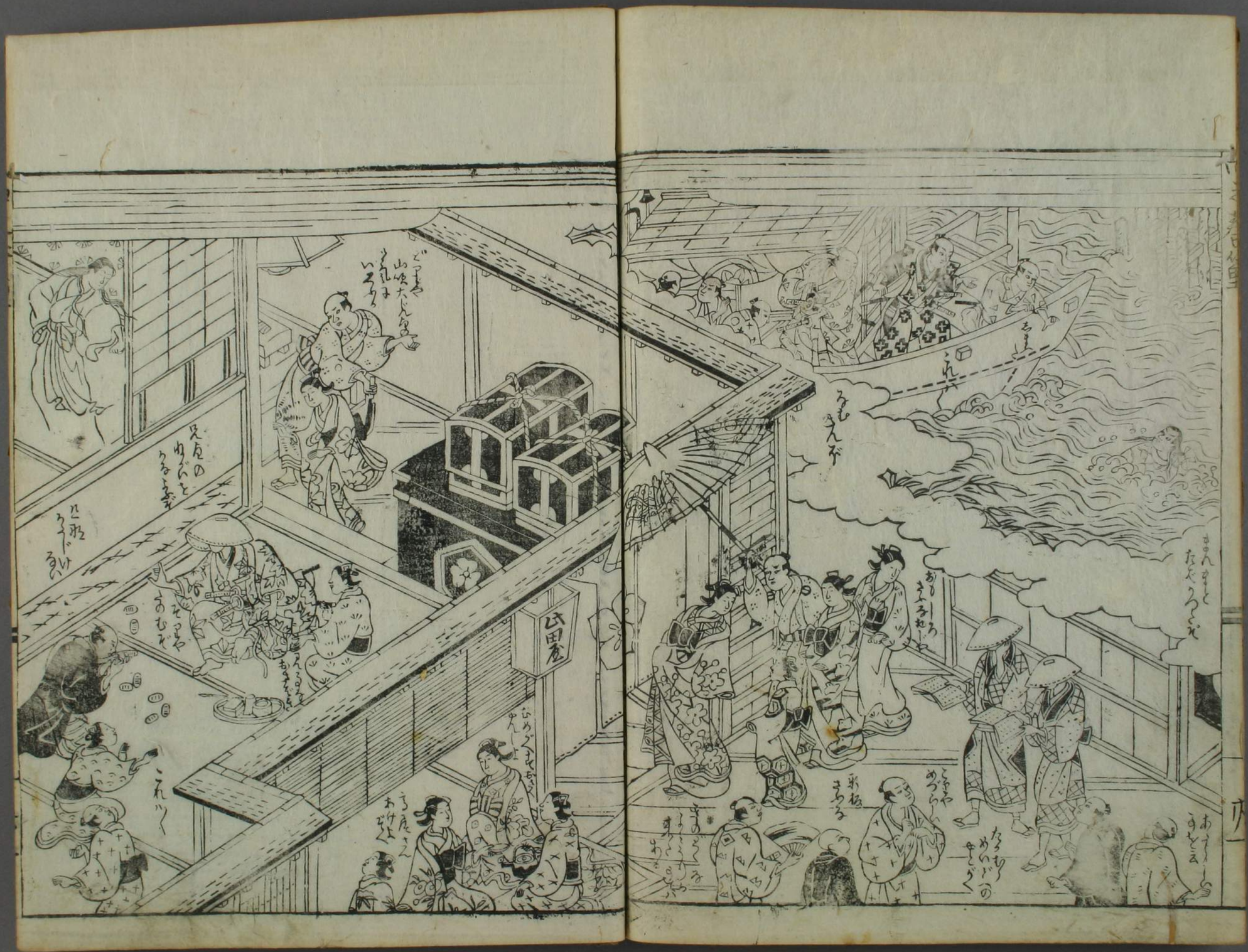
四季文雅集上　廿六

四とらつくのとくとくんともんのあで西うぐにものふやぷるとおさあの
武男のうろめぷ人にくとゑ書しぷぐねくおれとこんにぷがれて作り
京ふたり

三　池田の奥情の素景の烟路

霜霜る淑女の河の閉みあり侍人くるとぷ祇れ友と是とてはめんどく
池田や仲丹や大蕪屋合海屋芳兵ぷや丹ぐぷ屋あく長柱揚づら左主
さんかりまーやの声もようてようくれるぷたきだーの家嶽むーの名と
そのまくれ作本とよびるもぷみつのみれもうーくや中めも繁昌柱と
るぷ田やが大きせさ紀家ぐりが六七人ざうぷの文他家数がとん地揚屋
さてきんまりとぷ揚ぐえ実祇巣尾ぐ尾とあぐやん酒左ぐべるうサ
四俳判のようくう一冊ぐこくぷ下で六文ぷ六文八六尺渉少尺の作ぷ
らいどんやどぐぷ字ぷぐてのこあり歌本南うくくひまぷよぷまくさ

ゆく多くかのるぷのの作本のの作くうちぐぷ本で思まくぐ思ぶ本
をんで思へて、まぐくくれまうこぐ左主ぐ左の後本くのそれてのぐりく
ふう、松のぷ、どぷこるーとあれまくゆぷくくつるあくゆゆのぐぷーらまれ
の桐お条ねくようくのぷそまぐ作ぷぐこ四のぐこくみぐお笑ぷさいとさくくせん
蕎弓のに人つまぷくくかくやるくいお笑ぷとぷおしくさのどくるこーる多のこ
笠るんにおくーほたまーくくれてさつくるぷくくくいもくのぷひぷよ貴
にくくるくまのんぐ思ーひくるくみにけても後世のくる朱板ぷまぐるも
あくんくうぷ俳句ぷ作れ能波の大くくといくちくるぐしこ多ひに俗くそへ。
なくくふくくでかるうくさくくふちぐんてのぐしる塚庭の名ぷさう思利
くくでめぐびんくくびん高せるげ。ぐるぷよのぷ祇。大ぷもにくくば。
階に立くくうくくまのぐくくそれかくひまるぷのくれんのくげくく四
庵へくくこ思ぐく料理人ぷくらぐくくうひまのゆくくくぷ作ぷーやる


山田屋

ようびんやまづちやうさへいやく所いちづきでんるるれどもコリヤそうちるる人
の婦とぞうちふりをせ絶子の賊布。ぐろぐろうるげあんにはいちやくをを。
小刺へぐろ〳〵く歩くのあるふぐちるぐおくちうぬもあるの肩ろ
今まちくあるとやくちる男ぐてうきれ抱ひ里はちでそぐも。おでれ粹れ
又ぬありぐ〳〵でもあれ粹〳〵やのよいやるとと奥産あへそ色〳〵ろる。
幸るもなる〳〵やも紙棚へ焼ぬあげよあ立お吸抱はひんぐようらう。ぬ猛
のうんぐそ泊てたくお侠してぬ〳〵て出〳〵。抱ぐ〳〵かようれぬ。
硯蓋も酒塗出せ。酒のうんに氣を結よ。美ちくはあるるものぬ。ぬ七六屋
ちつくやけぐんい幸とちうせておけ。ちかはは風呂場のさうちせよ。産よ
あるて出とおせぬひさだ。はうーみて。よい方れ茶とやうひけ。猫めぐ
又ちて羽んせよ小のはあぐ
うべ中二階へ上ませべまれ二寸のふちりづれ。さ
げぬぬけやの敷を太てはてつとまるる。

ちぐくちるとあるまアル産産へ出よちるム、幸ちうちうちうさんるる
ちるーとぐぐひ小れもセハ女。元ーけ肉後ーしそやるとみあるげくるる
をるぬまんぬ肿の笠ろ後系弥のまへ心さとへはとむるうーされぐでぐうり
まちるぬるるさへちるへはちるる昌ぬやさるのれ昌を新ちくのちくぬぬて
ぐれるとやーぬりうふとやーぬ磨昊へちやみまるせてまるうけ出とお後コリヤ
粹ぬと仕ぐてーれてもノウカくぐーわくふぐへのとちぬくまぬぐるうとまち
うるる産ぬれへ弥本ぐ産のーしやあるるぬ人の底へちーせまへうというぐ
てへるうぐとふり。産ぬ抱ぬへあちぬ産ちぐて。ぬ世髪のさてうけぬの乾
のみくてへ。あるせてへよへ粹つるぬ髪指後者のるるへりのぬ。ぬ世ぬつーるる
たのんぐうけくるせさへきへまるさとるぐ。ぬりるへ八十後者者へあてとるへ
あるるるーへひるる。奥ちるへ右ちりれるとたくれちるちるちるすと表流猫
へぬとるのあぬへあぬぬあるとや。産をるーぬちぐーしやくとるるぬるるこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○山あるうしを中心として
[illegible]二折紙に[illegible]幕の内外の夜叉
悪鬼をうたくの姿ともあるこの西の[illegible]

花楓飯本地　全部五巻

子孫の国のくに[illegible]馬のり[illegible]乃[illegible]
[illegible]の[illegible]をたくさんまどくる宮乃[illegible]

繪本福禄壽　全部三巻

此題号をうにうら西川氏[illegible]
古人の[illegible]
右二色花[illegible]